

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「言葉でスケッチ」 教材名「言葉でスケッチ」

2 単元の目標

原因と結果など情報と情報との関係を理解することができる。 目的に合わせて詳しく書く部分を選び、事実と感想を区別して書き表すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「書くこと」において、目的に合わせて詳しく書く部分を選び、事実と感想を区別して書き表している。（B(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

見た様子を言葉だけで伝えるため、必要な特徴を選び、詳しく書く部分を考える。感想と観察した事実を区別する。学習指導要領のB(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教師が用意した安全な身近な物を観察し、形・色・位置・動きなどの記録から必要な特徴を選ぶ。独自例「赤い物」からどこが赤いかまで説明を加え、読み手の想像と照合する。おおむね満足できる状況は、目的に合わせて詳しく書く部分を選び、事実と感想を区別して書き表しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○対象を観察して事実を記録する。相手に伝える特徴を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○詳しさを変えて文章を書く。読み手の質問で説明を直す。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

目的に合わせて詳しく書く部分を選び、事実と感想を区別して書き表すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「相手に同じものを思い浮かべてもらうため、どの特徴を詳しく書きますか」 【めあて】見た様子を言葉だけで伝えるため、必要な特徴を選び、詳しく書く部分を考える。 〈予想される児童の反応〉 ・かわいいだけでは形が分からない。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「相手に同じものを思い浮かべてもらうため、どの特徴を詳しく書きますか」 詳しくを変えて文章を書く。読み手の質問で説明を直す。観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・かわいいだけでは形が分からない。 ・大きさより並び方を説明したい。 ・触っていないのに柔らかいと決めていた。	教師が用意した安全な身近な物を観察し、形・色・位置・動きなどの記録から必要な特徴を選ぶ。独自例「赤い物」からどこが赤いかまで説明を加え、読み手の想像と照合する。 想定するつまずき：印象語だけで対象が伝わらない、見た事実に想像を混ぜる。児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 目的に合わせて詳しく書く部分を選び、事実と感想を区別して書き表している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・触っていないのに柔らかいと決めていた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「相手に同じものを思い浮かべてもらうため、どの特徴を詳しく書きますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

